

小林炳翁 （こばやし ひらお） 舊長岡藩士。文政十一年八月十八日越後國生れ、明治十年八月、千四百日没（二八三一七）。講席、字炳文、通稱虎二郎。號寒翠、寒翠生炳叟、求志樓、求志洞、雙松、雙松迂夫等。嘉永二年江戸に出、佐久間象山の師事。明治二年長岡藩人參事となり、支藩二根山藩より贈られた米百俵を以て國漢學校を設立し、長岡の復興、教育の基礎を築く。四年上京して向島、小岩。

著書、佐久間象山著「象山先生詩鈔」全二冊（小林虎名、子安峻共校）北澤正誠編、明治十一年四月（就社）等。

文獻、山本有二書「米・百俵（隠れたる先覺者小林虎二郎）」（昭和十八年六月）千代新報社）、  
土田隆夫  
内山喜助著  
吉岡又司「南大一望―小林虎二郎とその

周辺」(昭和五十一年一月)台新編・長岡自民書店)等。

